

# 共感性を客観的に測定する MET-CORE2 日本語版の信頼性の検討 (1)

## —記述統計量と内的整合性の検討—

○福井義一 (甲南大学)・松尾和弥 (甲南大学大学院人文科学研究科・日本学術振興会)・  
 大浦真一 (甲南大学大学院人文科学研究科)・島 義弘・稲垣 勉 (鹿児島大学教育学系)

キーワード: MET-CORE2 日本語版, 共感性, 信頼性

### 目的

共感性は、対人関係を形成したり、維持したりするのに必要不可欠な能力である。共感性をはじめとした対人スキルの不足によって生じる人間関係の問題は、精神的健康だけでなく、心疾患や高コレステロール血症の発症といった身体的健康(例, 荒記・川上, 1993)にも悪影響を及ぼすことが明らかになっている。

従来の共感性研究では、自記式尺度による測定が主流であったが、これには社会的望ましさの問題が常に存在する。さらに、文章から内容を読み取って言語的に反応すること自体が共感性を必要とする課題であり、低得点がこうした能力不足のせいなのか、実際に共感性が低いための判断が難しい。また、共感性を測定する実験的手法として表情の情動認知課題も用いられるが、これには共感性の認知・情動的側面のうち認知的側面しか測定できないという問題がある。

これらの問題点を解決するために、福井他(2017)は、Multifaceted Empathy Test(以下 MET: Dziobek et al, 2008)の最新版である MET-CORE2 の日本語版を作成した。MET-CORE2 では、人物が登場する日常場面の写真を複数用いられているため、自記式尺度や表情の情動認知課題に比べて生態学的妥当性が高いと考えられる。さらに認知・情動的共感のどちらも同時に測定することが可能である。しかしながら、福井他(2017)で作成した MET-CORE2 日本語版の認知的共感の信頼性係数は非常に低く ( $\alpha = .123 \sim .274$ ), 正答率が非常に低い刺激(例, 16%)も複数含まれていた。そこで、本研究では MET-CORE2 日本語版において、認知的共感の感情語の訳語を一部修正し、その信頼性を再検討した。

### 方法

**研究協力者:** 平均年齢 18.59 歳 ( $SD = 1.27$ ) の大学生 75 名 (女性 61 名) の協力を得た。

**MET-CORE2 日本語版の修正:** 福井他(2017)が作成したパイロット版の MET-CORE2 日本語版の訳語のいくつかを、第 1~3 著者の合議の上で修正した。修正した訳語を用いた実験プログラムは、Millisecond 社の心理学実験用ソフトウェア Inquisit 5 によって作成された。刺激は、何らかの感情(肯定的・否定的感情につき各々 20 枚)を表出している人物の写真で構成されている(例, Figure 1)。一つの写真刺激から、



(左は否定的感情に対する認知的共感を、右は肯定的感情に対する情動的共感を測定している)

Figure 1. MET-CORE2の刺激の一例

認知・情動的共感を測定することが可能である。前者については、その人物が感じている感情を 4 つの選択肢から選ばせて正答率を算出し、後者については、その写真からどの程度強く感情を感じるかを 1~9 のリッカート法により評定させ、20 刺激に対する回答の平均値を求めた。認知・情動的共感を測定するブロックは、それぞれ 10 試行 8 ブロックで交互に呈示された。

**手続き:** MET-CORE2 は、協力者の同意を得た上で、心理系の講義の実習の一部として実施された。実施時間は 20 分程度であった。これとは別に質問紙調査も同時に行われた。

### 結果

MET-CORE2 の記述統計量と信頼性係数を算出した (Table 1)。否定的感情は、肯定的感情に比べて、認知的共感の正答率 ( $t(74) = 3.30, p < .01$ ) と情動的共感 ( $t(74) = 4.06, p < .001$ ) の得点がそれぞれ高かった。さらに、情動的共感については、感情価に関係なく、内的整合性が高かった ( $\alpha = .945 \sim .969$ ) のに対して、認知的共感は、いずれの信頼性係数も低かった (KR 係数 = .137 ~ .286)。そのため、認知的共感について、感情価ごとに各刺激間の相関係数を算出したところ、否定的・肯定的感情のどちらにおいても、負の関連を示す刺激の組み合わせが散見された。

Table 1. MET-CORE2日本語版の記述統計量および信頼性係数

		M	SD	信頼性係数
認知的共感	否定的	.624	.110	.137
	肯定的	.575	.089	.286
	合計	.599	.077	.268
情動的共感	否定的	5.21	1.64	.958
	肯定的	4.66	1.47	.945
	合計	4.94	1.44	.969

### 考察

本研究の結果、MET-CORE2 は、情動的共感については、信頼性係数が非常に高かったことから、十分な内的整合性を有しているといえる。それに対して、認知的共感については、訳語修正前(福井他, 2017)と同様に信頼性係数が低かった。これは、認知的共感の刺激の中に、同じ他の刺激と負の関連を示す刺激画像の組み合わせがあるためであると思われる。つまり、認知的共感の刺激の中には、肯定的・否定的というカテゴリーにおいて、本来属しているはずのカテゴリーとは反対のものが含まれていた可能性がある。今後は、そのような刺激を削除して信頼性係数を算出したり、新たな因子を設けたりする必要があるかもしれない。

本研究は、平成 30 年度科学研究費補助金基盤 (C) 「愛着と共感性の意識的・無意識的側面の関連とそれらが社会適応に及ぼす影響」(代表: 福井義一) の助成を受けて行われた。本発表内容に利益相反はない。

(FUKUI Yoshikazu, MATSUO Kazuya, OURA Shin-ichi, SHIMA Yoshihiro, INAGAKI Tsutomu)